

はじめに

本書は、最近報道などでよく耳にする話題を取り扱いながら、日本で英語を学習しても世界に十分通用する英語能力を身に付けさせることに主眼を置いている。特に、長く複雑な構造を持つ日本文の英訳に軸足を置いた総合英語教材である。

今日日本国内には多くの外国人が滞在し、また海外で英語を習得したいいわゆる「帰国子女」と呼ばれる人も毎年その数を増している。このような中、特に本書を使用して日本で英語を学習しようとする学生諸君が、将来これら外国人や帰国子女等と対等に英語を駆使して仕事をするには、彼らができないことができるようになることが重要である。つまり、我々の母国語である日本語と英語の双方の能力を磨くことである。

本書においては、この日本語の能力抜きには成り立たない和文英訳や英文解釈に主眼を置き、例えば和文英訳であれば、従来のように他人が作った文を暗記するのではなく、自分の持つ能力を最大限活かして、自分の頭で考え、自分の力だけで英訳ができるようになることを目指す。つまり、自分が英訳できそうな日本語や概念などは、頭を使い自分でも何とかかなりそうな簡単な日本語や概念に直してから英訳する訓練をするのである。何も知らない海外に放り出された時、我々は自分が知るものを最大限使って意思伝達しようとする。まさに、この原理を教室で再現するのである。

本書のさらなる大きな特徴の1つは、「第3章」以降に各章1問ずつ導入した、実際に学生が書いた英語の文章を読みその誤りを見つけ、訂正、説明させる問題である。同年代の仲間が書いた英文の誤りを指摘しその理由を説明することにより、文法や語法の理解をより深め、同じような間違いをしなくなること、仮に勢いでそのような間違いをしてしまっても自分でそれを見つけ出し修正できるようになることが期待される。

なお、本書は今述べてきたように和文英訳を重視しているが、英文和訳や総合英語的教材としても十分使用可能である。

最後に、本書刊行に当たり明治学院大学名誉教授 斎藤 宏先生には、非常に貴重なご意見をいただいたことを記し、心より感謝申し上げます。英作文を提供してくれたり、様々な協力を惜しまず提供してくれた現役学生や、元学生の川本遥氏、安江めぐみ氏、20代匿名希望（50音順）にも心より感謝いたします。また、本書刊行以前に本書の一部を英作文や講読の授業で試用したが、協力していただいた学生諸氏にも感謝申し上げます。

2011年11月

著者（五十音順）	宇佐美文雄	（明治学院大学 非常勤講師）
	山下 広司	（山梨県立大学国際政策学部 准教授、責任者）
	結城 淑子	（共立女子大学 非常勤講師）
英文校閲	Peter Mountford	（山梨県立大学 講師）

本書で特に重視する Dictation と和文英訳の練習問題を作成するに当たっては、「はじめに」で述べた目的実現のため、特に次のような点に留意した。

[Dictation]

自分が理解できていない文法事項は聞き取りで間違えるという習性を利用し、弱点を見つけだす練習問題。聞いたものの書き取り終了後、見直す時間を設け、そこでも直せなかった事項は、おそらく正確に理解できていない事項と考えてよいだろう。例えば、What did you see? という文を聞き What you see? と書いてしまい、見直してもなんとも思わないなら、wh 疑問文の作り方、特に倒置と do 挿入の問題が理解できていないことになる。また、I go to school every day. を聞き、I go school on every day. としてしまったら、自動詞（目的語をとれないので、後ろに名詞句をとる場合、前置詞の力を借りる）や前置詞の復習をする必要がありそうである。苦手箇所を見つけ出し、早めに復習するのが、この練習問題の狙いである。

[Composition]

本書で一番重視するのが和文英訳である。近年の情報通信技術の進歩により、仕事においても私生活においても英文で情報を送ることが格段に多くなってきている。特に仕事面においては上司に、「君、これを英訳して相手方にメールしておいて」と言われることは、日常茶飯事である。昔は電話や面会して行っていた多くの仕事を、現在ではメールで済ませてしまうことが多いことは周知の事実であろう。このような場合、長くて複雑な構造を持つ日本語を英訳しなくてはならないことが多い。本書で使用する日本語も、他の多くの英作文などの本とは異なり、この需要にあわせて長くて複雑な構造を持つものを中心にしている。

本書の和文英訳の訓練のもう1つの特徴は、**今自分が持つ能力を最大限に生かすということである**。つまり、日本語を見たらそれをすぐ英訳しようとするのではなく、その日本語を自分が処理できる簡単な日本語に変えてから英訳するということである。言い換えれば、間違えるくらいなら自分が使えない構文を無理に使おうとしないということである。関係代名詞構文や関係副詞構文が苦手であれば、さしあたり原文の日本語を2つに分けてから英訳すればいいのである。分詞構文が理解できていなければ、接続詞と主語、場合によっては関係代名詞を含む文を使用すればよいだけである。語彙についても、最初から安易に和英辞典を使用するのではなく、必要に応じて簡単な日本語に置き換えてから英訳する訓練を行う。次のような文を英語にする場合、皆さんならどうするだろうか？

① 需要が高まるにつれ、価格は上昇する。野菜も例外ではない。

② 私はこの家を建てた2001年の2年前に結婚した。

単語を多く知っていることはきわめて重要であり、皆さんは「需要」、「価格」、「例外」、

「2年前」などの日本語に対する英語の語句はご存知であろうから、大きな問題はないだろう。また、②では時制なども重要になるだろうが、これも大丈夫であろう。ただ、これは今回はたまたま知っただけであり、知らないものが出てくることはいくらでもあるので、安心は禁物である。私が担当している大学1年生の大半は、これらの語句や文法事項は当然知らない。しかも、試験や職場でよくある短時間での作文を想定して、辞書の使用も最初は認められない（仮に辞書で調べても、その単語を正しく使えるとは限らない）。しかしそれでも、彼らはこの日本語を簡単に英訳できる。彼らは知識はなくても、頭を使う訓練を受けているからである。つまり、知らない単語は概念で考え、複雑な構造の文は自分が扱える程度の簡単な構造に直すなどして、中学生でも何とかかなりそのような次のような日本語に置き換える訓練をしているからである。

①より多くの人があるものを買いたいとき、その値段は上がる（それを買うためにより多くのお金を払わなければならない）。これは、野菜に対しても事実である。

②私は1999年に結婚し、2001年にこの家を建てた。
これなら、中学生高学年にでもなれば英語訳は簡単である。

①As [When] more and more people want [wish] to buy something, its price goes up [they have to pay more to get one]. This is also true for vegetables.

②I got married in 1999 and built this house in 2001.

このような訓練を繰り返すことは、英作文のみならず、話す時にもより大きな効果を発揮する。まず、「書く」ことも「話す」ことも、文を作るという点では同じなのである（「話す」場合、通訳でもしない限り和文英訳のように英訳する日本語はないかもしれないが、その代わり頭の中に言い表したい概念というものがあるので、基本的に和文英訳と同じ）。さらに、「書く」場合はある程度時間をかけてよいのに対し、「話す」場合には瞬間的に文を作らなくてはならない。無論「話す」場合は辞書を使用する時間がないので、自分が知らないものは簡単に言い換える練習がより重要となるのである。この訓練は、英作文の訓練にとどまらず、「話す」訓練にもなるのである。「話す」場合も「書く」場合も、自分で文が作れば、表現などを極めてたくさん暗記しなくても、どんな状況でもその状況を描写できるのである。最初は幼稚な英文しか作れない人もいるであろうが、徐々に単語や使える文法事項を習得していけば、大人らしいきれいな英文が書けるようになるのである。これが言葉というものであり、正しい言葉の習得方法である。

以上のように、本書における和文英訳は、元の日本語に自分を合わせるのではなく、元の日本語を自分に合うように直し、自分の持つ語彙力と文法力を最大限利用して、暗記に頼らず自分の力で作文することを目的にしている。

※「練習問題4」の和文英訳で使用する日本語は、前後でつながっているものが大半だが、本書では別々の単文として考えてよい。

(注意) 最近筆記体を読み書きできない学生が大変多い。筆記体は手紙などで使用すれば温かみがあり、サインなどでも模倣されにくく、何よりもブロック体より速く書けるため試験の際は有利である。これを読み書きできるようになることは極めて大切である。

Contents

- Chapter 1 **Easing Pollution in China** (中国の空気をきれいに) 8
節の構造と主部、述部
- Chapter 2 **Global Warming Makes Rice Production
Easier in Hokkaido** (温暖化で米も北の大地から) 16
名詞句の構造と複合名詞句
- Chapter 3 **Relief for Drug Side Effects**
(医薬品の副作用に救済制度) 22
能動文と受け身文
- Chapter 4 **Fear of Studying Abroad** (海外留学の不安) 28
時制—過去形
- Chapter 5 **Pitch in and Help the Elderly** (日本の老人問題) 33
時制—現在完了形、過去完了形
- Chapter 6 **Japan's Poverty Problem** (日本の貧困問題) 39
時制—現在完了進行形、過去進行形など時制の応用
- Chapter 7 **More Students cannot Concentrate
on their Studies** (勉学に打ち込めない学生たち) 45
関係代名詞
- Chapter 8 **Stricken Milk and Vegetables**
(被害を受けた牛乳と野菜) 52
関係副詞

Chapter 9	Earthquake Early Warning System? (緊急地震速報?)	58
	分詞構文と関係代名詞の意外な関係	
Chapter 10	Consumer Agency to Crack Down on Health Food Ads (消費者庁は健康食品の誇大広告の取り締まりを強化)	65
	名詞の前および文中に現れる -ing と過去分詞	
Chapter 11	More Chinese in Japan (訪日中国人が増加)	71
	名詞句と前置詞、3つの用法の不定詞と動名詞	
Chapter 12	Intelligent Transport System Promises Improved Convenience (次世代高度道路交通システムにより交通の利便性が向上)	78
	助動詞がついた受け身文、後ろが不定詞の受け身文	
Chapter 13	Shinkansen May Bring Tragedy (新幹線の明暗)	84
	仮定法	
Chapter 14	Bicycles and Traffic Safety (自転車と交通安全)	90
	あと少し! 本書の復習じゃ!	
Chapter 15	Applying for a Job — How to Write Your Resume and Cover Letter (うそにならない程度に自分を大きく見せよう)	96

本章のポイント

英作文を機械的に行う方法を学ぶ中で、節、主部、述部について理解を深める



Reading

Three years ago, a joint study by Japanese and Chinese experts found that concentration of pollutants like carbon dioxide was four times higher in Beijing than in Tokyo. To reduce the amount of exhaust gas emission, Beijing has taken drastic measures to take 1.3 million vehicles off the roads.

There are currently slightly over three million cars in Beijing, and that number is expected to increase by 15% to 3.5 million by summer next year. The exhaust from those cars is a major cause of the city's air pollution.

China, feeling a sense of crisis, has set out to forcibly reduce the numbers of cars on the roads. In Beijing today, only cars with odd numbered license plates are being allowed to drive within the city. Offenders will be fined. With the exception of some emergency vehicles, cars with odd and even numbered license plates will be prohibited from the streets on alternate days. The measure will take 1.3 million vehicles off the streets daily, which is expected to lower exhaust gas emission by 40%.

When interviewed on the street, one Beijing citizen says, "Because it is the first day today, I'm not going to take the car, but it's good for the environment." "Roads were less crowded today," comments another passer-by. Beijing is also considering prohibiting any construction work that could stir up dirt particles.

►Notes

increase [ɪnkrɪːs] **動詞** (自動詞) 増える (他動詞) ~を増やす

[ɪnkrɪːs] **名詞** 増加

decrease も同じく自動詞、他動詞、名詞として働く。本文の13行目の動詞 lower は、ここでは「~を下げる」という他動詞用法。

expect to については、TIPS 参照。

練習 1 Warming-Up 次の単語の意味を書きなさい。

- | | | | |
|-------------------|-----|-----------------|-----|
| (1) joint | () | (2) expert | () |
| (3) concentration | () | (4) pollutant | () |
| (5) reduce | () | (6) exhaust gas | () |
| (7) emission | () | (8) drastic | () |
| (9) measure | () | (10) currently | () |
| (11) crisis | () | (12) vehicle | () |
| (13) alternate | () | (14) exception | () |
| (15) emergency | () | (16) odd number | () |
| (17) even number | () | | |

練習 2 Summary 次の文章は本文を要約したものである。CDを聞き、空所を埋めなさい。



There are currently (算用数字) cars in Beijing, and that number is () to rise to (算用数字) by summer next year. With the () in the () of cars, the city is suffering from severe () (). To ease the problem, () Beijing () have come up with a new idea to () the number of () on the streets. Those () the rule will be () to pay a (). If this new measure proves to be successful, () Beijing () will also put into () other () to () air pollution.

回 Grammar 節の構造と主部、述部

機械的な和文英訳の方法を学ぶ中で、節の構造を学ぶとともに、主部と述部についてより深く理解する。述部について学ぶ中で、本文などでも使用されている increase などの動詞の使い方についても理解を深め (Usage 参照)、練習する。

1 英作文を機械的に行う方法

日本語を英語に訳すには、次の手順で英訳するとよい。

- ①日本語の文を主部と述部に分ける。この際必要な語句があれば補う。
- ②主部と述部の中心の語を探す。
- ③中心の語を英訳する。
- ④主部、述部それぞれ中心の語に近いものから英訳していく。
- ⑤時制などを調整する。

(注意1) 日本文ではよく主語や目的語が省略される。英語ではこれらの要素を省略しないのが通常

なので、英訳する日本語で主語などが省略されている場合は、①の段階で補う。
(注意2) 例えば「調査した人の7割」は、「調査された人の70%」ということであり、これも①の段階で直す。ちなみに「7割」は「70%」とするとよい。

(注意3) 時制は最後に処理するとよい。時制を決めるには、それ以前に例えばyesterdayやfor a long timeというような時制を決める副詞的要素が挿入されていなくては決められない。yesterdayでは過去形に、for a long timeではよく現在完了形になる。これら副詞的要素は文を作る最後の段階で挿入されることも多いので、時制は最後に処理するとよい。ただし、疑問文にする操作などは、時制を決めた後で行う。

「日本人が使用する水の量が、最近急速に減少している」という文を、上の手順に従って英訳してみる。

①主部＝日本人が使用する水の量が

述部＝最近急速に減少している

②主部の中心＝量が

述部の中心＝減少する

③主部の中心の訳語＝amount

述部の中心の訳語＝decrease

④中心の語から (主部) amount

amount of water

amount of water Japanese use

the amount of water Japanese use

(注意) 冠詞は名詞句の中で一番最後の段階で入れる。amountしかない時点では、anなのかtheなのか分からない。of waterやJapanese useが入ることにより、何の量でもいいのではなく、「日本人が使用する水の量」と特定の「量」であることになるのでtheになる。

(述部) decrease

decrease drastically

decrease drastically these days

The amount of water Japanese use decrease drastically these days.

⑤時制の調整 The amount of water Japanese use is decreasing drastically these days.

* 2つ以上の節からなる長い日本語を英訳する場合、各節ごとに個別にこの作業を行い、最後に(⑤の前に) 接続詞などで結ぶ。(例) 以下の【練習4の(4)】。主語、目的語が節の場合も同じ。

2 節の構造と主部、述部について理解する

主部 (主語) には通常、名詞句以外にも、動名詞句、名詞的用法の不定詞句 (名詞句の現れる位置に生じる不定詞句)、名詞節など、名詞的要素が入ることができる。

(例) The man likes tennis. (名詞句)

Studying abroad is meaningful. (動名詞句)

To travel abroad is my dream. (名詞的用法の不定詞句)

That he is clever is well-known. (名詞節)

注意が必要なのが、この主語の位置であるかのように見える場所に、thereのような副詞句や「～される」という意味を持つ動詞の過去分詞のような要素が入るように見え



練習 3 Dictation

上の文法説明をよく理解した上で、CDにしたがって次の(1)から(6)の文を書き取りなさい。最後の問題が終了したら2分おくので、自分が書いた文を読み直し、不審な部分を修正してみよう。

- (1) _____

- (2) _____

- (3) _____

- (4) _____

- (5) _____

- (6) _____

回 Usage 「増える」や「減る」を表す動詞increaseなどの用法 (自動詞用法)

「増減を表す動詞」 + (by) 「増えた、減った度合いや数」 + to 「結果の数」

(例) increase (by) 100 to 200 (100 増えて 200 になる)


drop (by) 20% to 40% (20% 減って 40% になる)

by は使わないこともあり、increase 100 to 200 でもよい。また、(by) 「増えた、減った度合いや数」と to 「結果の数」は、increase 100 / increase to 200 のように現れない場合もある。

(注意) 本文の中にある lower という動詞は、ここでは「下がる」ではなく「～を下げる」という意味の他動詞として使用されている。動詞の後ろにまず「～を」に当たる目的語の名詞句を入れ、その後で数に関する情報を入れる。

(例) The Bank of Japan lowered its interest rate by 1% to 4%.

この他動詞用法の場合も、by ... と to ... は現れない場合がある。なお、ここで使用している動詞は他動詞用法なので、目的語は省略しない。他動詞用法の increase などとも基本的に同じ。

 **練習 4 (Composition)** 次の日本語を英語に訳しなさい。節を主部と述部に分け、中心の語から英訳する練習をしてみよう。(ヒント)は無視してもかまわない。

- (1) 世界の共産主義国の1つである中国は、経済を拡大するために最大限の努力をしています。

(ヒント)「世界には複数の共産主義国があり、その1つ」ということなので、one of the communist nationsだろうか、それとも nation だろうか? 「共産主義国の1つ」が難しければ、「中国は共産主義国であり」だけでもよいだろう。「その経済を拡大する」は expand。

- (2) 最近、車を所有する中国人が増えています。

(ヒント)「車を所有する(=「持つ」でも可)中国人の「数」が増えている」ということ。「持っている」などのような状態を表す動詞が使用されているわけでもないのに日本語で「～している」と進行形になっている場合、英語でもしばしば進行形になる。

- (3) 車の所有者は北京だけで300万人おり、来年夏までには350万人を超えると予想されています。(expectを使わない言い方もあわせて考えてみよう。)

(ヒント) 頭の中で「50万以上増加する」と計算して書いてもよい。動詞は believe (that) ... なども可。

- (4) 車が増えるにつれ、大気汚染が深刻になっています。

(ヒント) 大気がより汚染されてきている(汚くなってきている)「汚染されて=polluted」としてもよいだろう。

- (5) この問題を解決するためには、もっと先進国に学ぶ必要があります。
(ヒント) 主語がないので補う。「先進国の経験から学ぶ」とするとよい。
-
-

* 数などの増減や変動などを表す場合、本章で紹介したように the number of ~などを主語に使用する以外に次のような方法もある。

(例) 部活動に参加する学生が増えている。

Students who participate in club activities are increasing [have been increasing] in number.

中国製の車は、数の上で増加した。

Chinese-made cars have increased in quantity.

TIPS

❶ expect という動詞には、次のような用法があり、意味も異なる。

- (1) expect to do ~ 「～するつもりである」
 (2) expect A to do ~ 「Aが～すると思う、思っている」

次の文はどちらの用法であろうか？

That number is expected to increase 15% to 3.5 million by next summer.

John is expected to arrive here by two.

ここでは受け身という変形操作が関与している。何か変形操作が関与している場合、本章の説明にある Related to the organization... などの文のように元に戻してみるとよい。

We expect that number to increase by 15% to 3.5 million by next summer.

We expect John to arrive here by two.

このように元に戻してみると、(2)の用法であることがすぐ分かる。和訳する場合は、expect A to do ~ が、「(主語は) Aが～すると思う、思っている」なので、その受け身形、つまり「Aが～すると思われる、思われている」。「その数は来年の夏までに15%増えて350万になると思われている」。辞書を引く場合も、元に戻してから調べるのが基本（受け身構文については、Chapter 3の説明も参照）。

❷ コラム 数の数え方

英語では100すなわち“hundred”を除き、1,000増えるごとに1つの単位が使用される。

1,000	one thousand
1,000,000	one million
1,000,000,000	one billion
1,000,000,000,000	one trillion

ある数値の全ての部分がある単位に満たないときは、その単位は原則的に使用できない。たとえば、355,000という数値においては、百万に到達する部分がないので、millionは使用できない。次の数値を使用して読み方を練習してみる。

355,000	three hundred (and) fifty five thousand
1,301,211	one million three hundred (and) one thousand two hundred (and) eleven
1,300,000,000	one billion (and) three hundred million

ただし、最後の例のようにbillionなどの単位からこぼれる桁が1桁か2桁程度の場合、小数点〈point〉を使用して、one-point-three billionとしてもよい。